

秦野市地域福祉計画（案）に対するパブリックコメントの実施結果について

1 意見募集期間

平成28年2月17日～3月10日

2 意見募集の周知方法

広報はだの2月15日号及び市ホームページ

3 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール及び持参の方法による

4 提出された意見の概要

意見内容	件数
第1章 地域福祉計画の策定に当たって	
第2章 地域福祉を取り巻く状況	
第3章 前計画（第2期計画）の検証と課題	13
第4章 秦野市の福祉が目指すもの	
第5章 施策の推進	
第6章 計画の推進体制	
合計	13

5 提出された意見の取扱い

区分	取扱い	件数
A	意見等の趣旨を計画に反映したもの	8
B	意見等の趣旨等は既に計画に反映されていると考えるもの	
C	意見等の趣旨等を計画に反映することは困難だが、今後の取組みにおいて参考にするもの	
D	反映することが困難なもの	
E	内容に関する感想等、その他のもの	5

秦野市地域福祉計画（第3期）案に市民から寄せられた意見等一覧

番号	該当箇所	意見の概要	区分	御意見・ご提案に対する考え方
1	第3章 前計画の検証	項目ごとにある《主な取組みの経過と実績》の経過の表記があたかも実績のように書かれている印象があるので、経過と実績は分けて表記した方がよいと思います。	E	地域福祉計画は、施策の方向性を示す計画で、取組みの多くは複数施策の連携によって成り立ちます。施策の実績に関する記述については、経過や連携の過程に触れる表現がよりわかりやすい記述となる場合には、一体的な表現としています。
2	第3章 前計画の検証	取組みの内容が「です・ます調」で書かれているのに対し、経過や実績は「だ・である調」となっているので、どちらかに統一した方がよいと思います。	E	第2期地域福祉計画における取組みの記述と、実績の記述とを区別しやすいように表現を分けています。
3	第3章 前計画の検証	13ページ「(2)こころのバリアフリーの推進」ですが、ここで言う障害は精神障害に限定しているのでしょうか。身体障害や知的障害は含まれないのでしょうか。	E	身体障害や知的障害を含む障害者全体を指しますが、特に精神障害への正しい理解を図る取組みを実施しました。
4	第3章 前計画の検証	13ページ「(2)こころのバリアフリーの推進」の《主な取組みの経過や実績》ですが、どのように正しい理解を図ったのかという記述がなく、具体性に欠ける気がします。	A	中学校・高校において講演を実施するとともに、障害者自身の体験発表を行っており、より具体的な記述を追記いたします。
5	第3章 前計画の検証	14ページ（上段及び中段）の《主な取組みの経過や実績》に「～を開催した」とありますが、実績ならば、単に（「開催した」、「実施した」という）事実を述べるのではなくて、実施回数も欲しいところです。	A	ボランティアコーディネータ研修、地区コーディネータやニーズ対応チームを対象とした研修について、より具体的な記述を追記いたします。
6	第3章 前計画の検証	15ページ（下段）の《主な取組みの経過や実績》の表中の「施設訪問の回数」ですが、平成26年・27年の記述がありません。これはどのような事情によるのでしょうか。経過や実績を述べるならば、単に図表を載せるのではなく、時系列の推移説明も必要かと思います。	E	施設訪問については、2つの友愛チームが、計5か所の市内施設を訪問していましたが、施設については専門の職員がいるため、一つチームが26年度から訪問を中止しています。

番号	該当箇所	意見の概要	区分	御意見・御提案に対する考え方
7	第3章 前計画の検証	16 ページ（上段）の《主な取組みの経過や実績》の文章ですが、「近所付き合いや友達が少なく〜健康でいきいきとした生活を送るためのデイ・サービスを実施します。」というように下線部だけ変えれば、そのまま取組み内容になります。要するに、内容を少し変えただけの印象で、これを経過や実績として載せるには安易すぎるような気がします。	A	いきがい型デイサービス、ミニデイサービスの実績について、具体的な記述を追記いたします。
8	第3章 前計画の検証	16 ページ（下段）の敬老会の《主な取組みの経過や実績》ですが、具体的にどのようにして意識の高揚や促進に努めたのか、また、どういう手段で関心と理解を深めたのかという記述がなく、抽象的過ぎる印象を受けます。	A	敬老会での取組みの実績について、趣旨や目的に触れた記述を追記いたします。
9	第3章 前計画の検証	17 ページ（上段）の《主な取組みの経過や実績》に「自主財源の確保や人件費の抑制など自主自立を目指した改善を求めながら、シルバー人材センターの運営費及び事業費の一部を助成した。」とありますが、財源の確保や人件費の抑制を求めながら、その一方で費用を助成するという説明がよく分かりません。相反するような内容に見受けられます。	A	市ではシルバー人材センターの運営費及び事業費の一部を助成し、その活動を支援しています。費用助成以外の支援に触れた記述を追記し、支援の趣旨が伝わりやすい表現といたします。
10	第3章 前計画の検証	21 ページ（下段）の障害福祉なんでも相談室の《主な取組みの経過や実績》ですが、内容に対する経過や実績が当たり前すぎます。経過や実績で述べている「〜相談や情報提供を行った。」のは当然の業務であって、これを経過なり実績として扱うのはおかしい感じがします。	A	相談等の件数を挙げ、より具体的な表現とします。

番号	該当箇所	意見の概要	区分	御意見・ご提案に対する考え方
11	第3章 前計画の検証	23 ページ（上段）の前計画の取り組みの内容に「～ 民生委員・児童委員と自治会、関係機関との連携、情報交換について支援していきます。」に対して、「《主な取り組みの経過や実績》に「災害時要援護者支援班を災害時配慮者支援班に改めた。」とあります。この「援護者を配慮者に改める」ことと、「連携・情報交換云々」の結びつきが全く分かりません。	A	平成27年度より民生委員・児童委員をはじめとする地域の関係団体を交え、地域ケア会議を本格実施しましたので、具体的な記述として追記いたします。
12	第3章 前計画の検証	27 ページ 2(1)の《主な取り組みの経過や実績》に、「～ 支援の方法等を説明し、避難支援対策を図った。」とありますが、「避難時において、支援者が万が一怪我などをした際の責任の所在」や「そもそも資格のない自治会員が行ってよいのか」などの疑問がある中で、あたかも実績を強調するような表現は適切ではないと思います。また、避難行動要支援者名簿を送りっぱなしで「あとは自治会で考えて下さい」的な雰囲気もありますから、行政の支援内容としては実に無責任だと思えます。	E	災害発生直後の災害対応では、地域の力＝共助が重要な役割を担います。そのため、専門家ではなくても、地域の一人一人の力が大きな力となります。 自分や家族の身の安全を確保したうえで、可能な範囲内での避難支援をお願いしています。 出前講座等を実施しており、今後は市の方からも自ら地域に出向いて支援対策について説明してまいります。
13	第3章 前計画の検証	32 ページ（下段）の前計画での取り組みの内容に、いきなり「ハイリスクの人」と出てきますが、どのような人を指してハイリスクと言っているのか、前置きなり説明がないため不十分です。	A	「ハイリスクの人」とは、自殺をほのめかす発言があるなど、自殺の危険性が高く早急に支援が必要な人を指しますが、第2期地域福祉計画においては、そこまで危険性は高くないが「悩みを抱えた人」という意味で使用しています。 どのような人を対象とするのか明確でなかったため、次期計画では「悩みを抱えた人」という表現に改めています。 第2期計画の本文ではありますが、注釈を設けます。